

鶏卵生産等のアンケート 調査結果について

2024(令和6)年3月

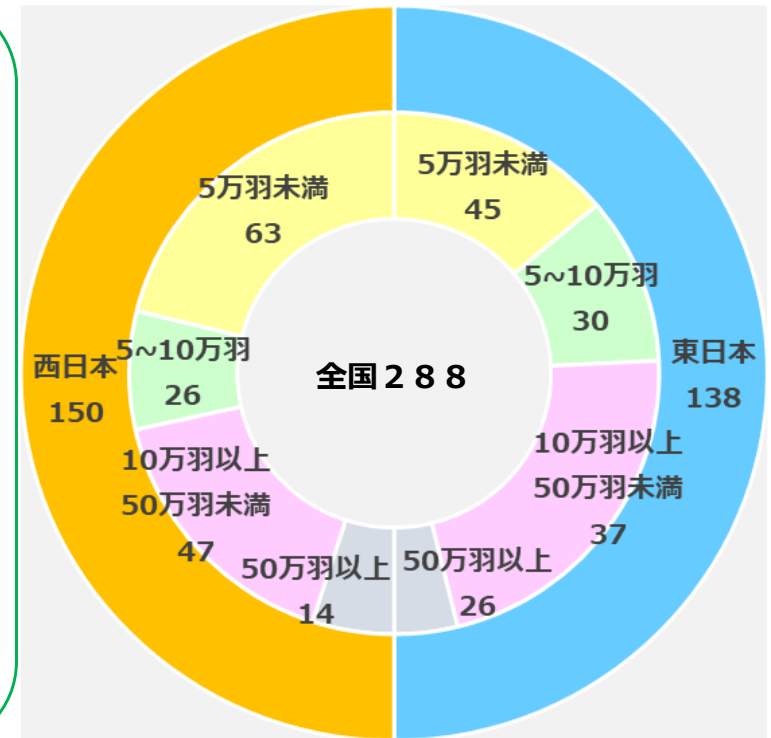
(一社)日本養鶏協会

アンケート調査の概要

※ 本調査は、令和5年10月2日から実施しており、今後の需給の動向により、意向に変化が生じる可能性があることに留意

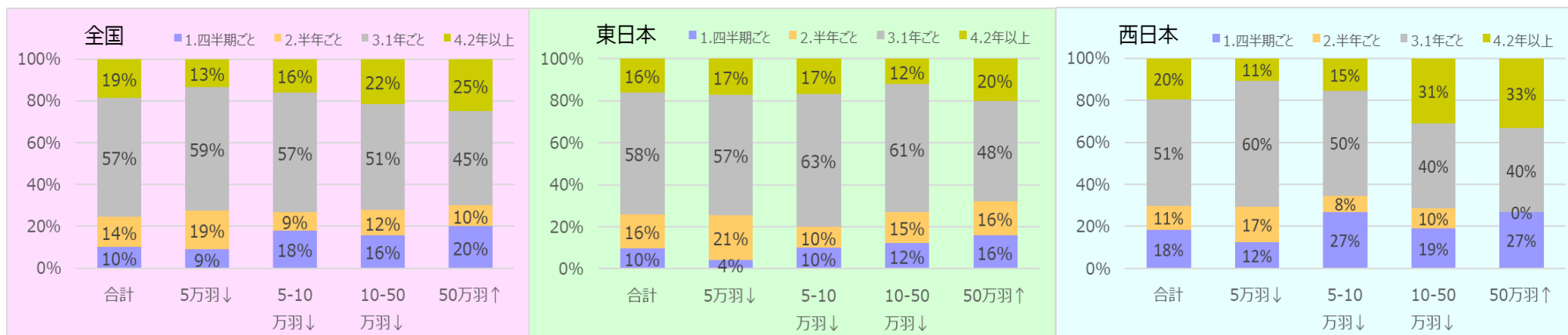
1 アンケート回収状況

- 鶏卵生産者経営安定対策事業加入生産者606名に調査をおこなった。
調査方法は、アンケート用紙を郵送し、FAX・郵送にて回収した。
- 調査項目
たまごの生産・出荷計画、販売状況等
飼養状況(ひなの導入、誘導換羽、成鶏更新参加)
今後の予定(飼養羽数の増減、販売先の計画)
- 回収:288名(回収率:48%)
全 国288名(100%)
[5万羽未満:108名、5万羽～10万羽未満:56名、10万羽以上:84名、50万羽以上:40名]
東日本138名(48%)
[5万羽未満:45名、5万羽～10万羽未満:30名、10万羽以上:37名、50万羽以上:26名]
西日本150名(52%)
[5万羽未満:63名、5万羽～10万羽未満:26名、10万羽以上:47名、50万羽以上:14名]



2 生産・出荷販売の計画

- 生産・出荷計画について、全国の飼養規模全体では、「1年ごと」が63%、「2年以上」は18%、「半年ごと」10%、「四半期ごと」9%の回答となった。
- 飼養規模別では、規模が大きくなる毎に、「2年以上」の割合が増加し、長期的な計画設定をする回答になっている。



3 ひなの導入予定

- 導入時のロット数は、**全国平均6.7ロット(東日本平均6.7ロット、西日本平均6.7ロット)**の回答となった。
- 年間導入回数は、**全国平均6.1回(東日本平均6.7回、西日本平均5.6回)**の回答となった。
- ひなの購入予約は、**全国平均は導入の11.1カ月前(東日本平均:導入の11.5カ月前、西日本平均:導入の10.7カ月前)**の回答となった。
- 成鶏の飼養日齢は、**全飼養羽数平均664日(5万羽未満:638日、5~10万羽未満:667日、10~50万羽未満:681日、50万羽以上:690日)**の回答となった。
- 成鶏出荷後の空舎期間は、**全飼養羽数平均32日(5万羽未満:35日、5~10万羽未満:34日、10~50万羽未満:30日、50万羽以上:26日)**の回答となった。

①ロット数は、**全国平均：6.7ロット(最大100ロット～最小1ロット)、東日本平均：6.7ロット(35ロット～1ロット)、西日本平均：6.7ロット(100ロット～1ロット)**

②年間導入回数は、**全国平均：6.1回(最大60回～最小1回)、東日本平均：6.7回(41回～1回)、西日本平均：5.6回(60回～1回)**

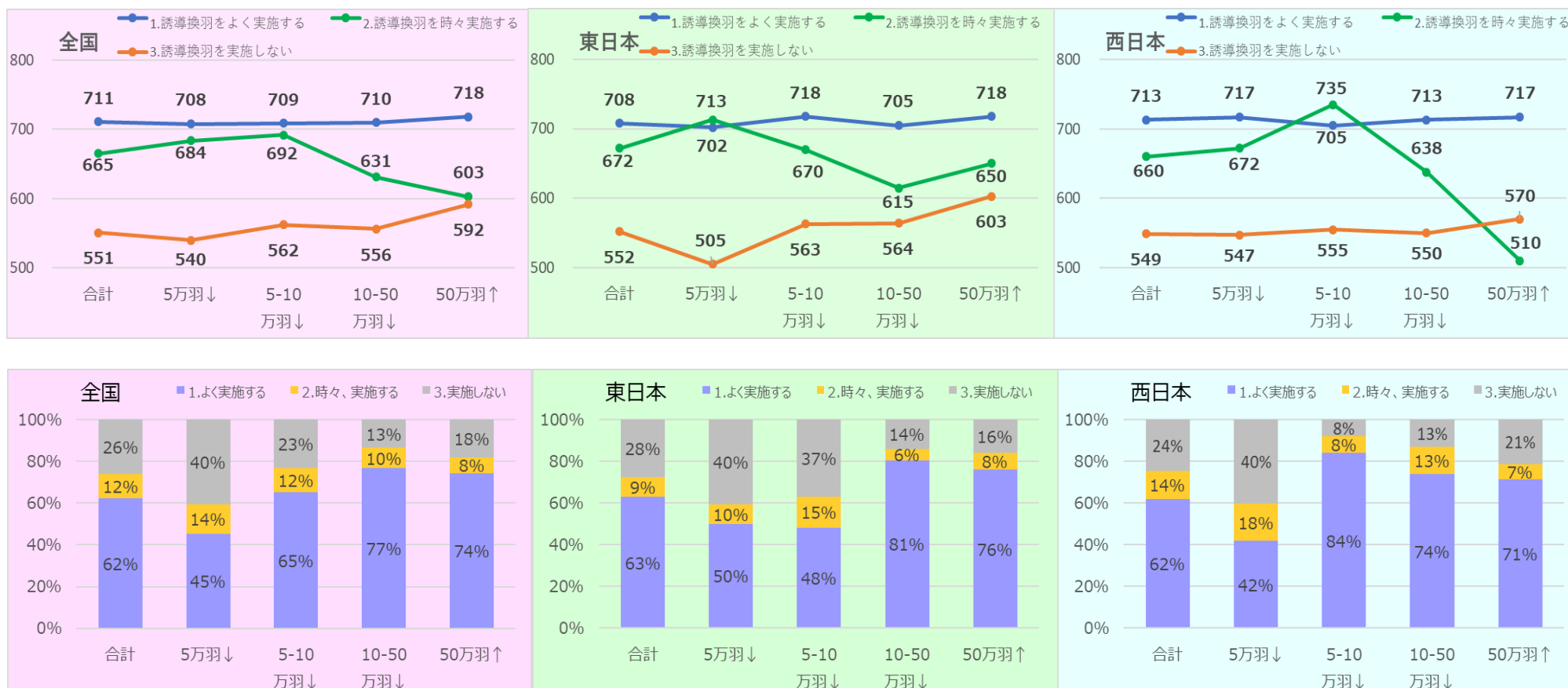
③ひなの購入予約は、**全国平均：導入の11.1か月前(最大36か月～最小1か月)、東日本平均：導入の11.5か月前(24か月～2か月)、西日本平均：導入の10.7か月前(36か月～1か月)**

④成鶏の飼養日齢：**全飼養羽数平均664日(東日本：660日、西日本：667日)、5万羽未満：638日(東日本：634日、西日本：640日)、5~10万羽未満：667日(東日本：643日、西日本：695日)、10~50万羽未満：681日(東日本：679日、西日本：684日)、50万羽以上：690日(東日本：696日、西日本：678日)**

⑤成鶏出荷後の空舎期間：**全飼養羽数平均32日、5万羽未満：35日(最大260日～最小0日)、5~10万羽未満：34日(100日～10日)、10~50万羽未満：30日(90日～7日)、50万羽以上：26日(60日～14日)**

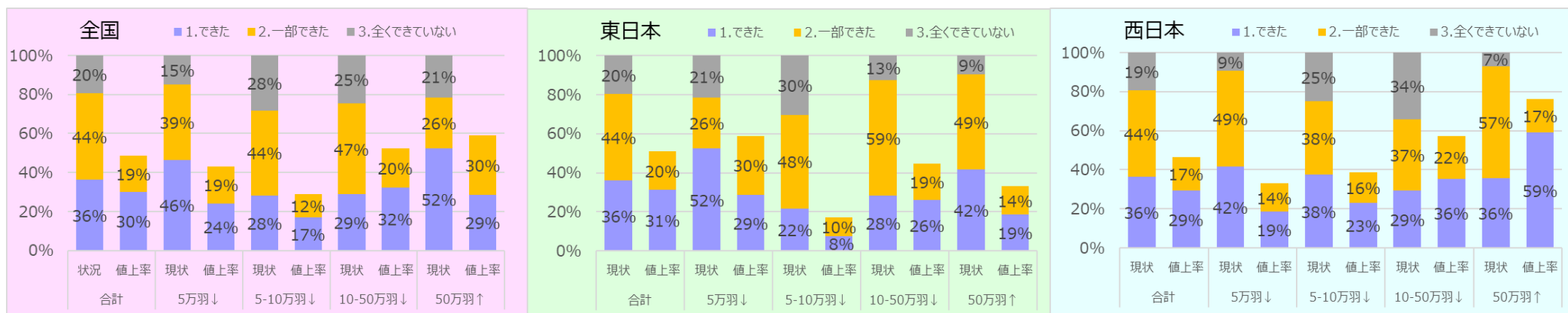
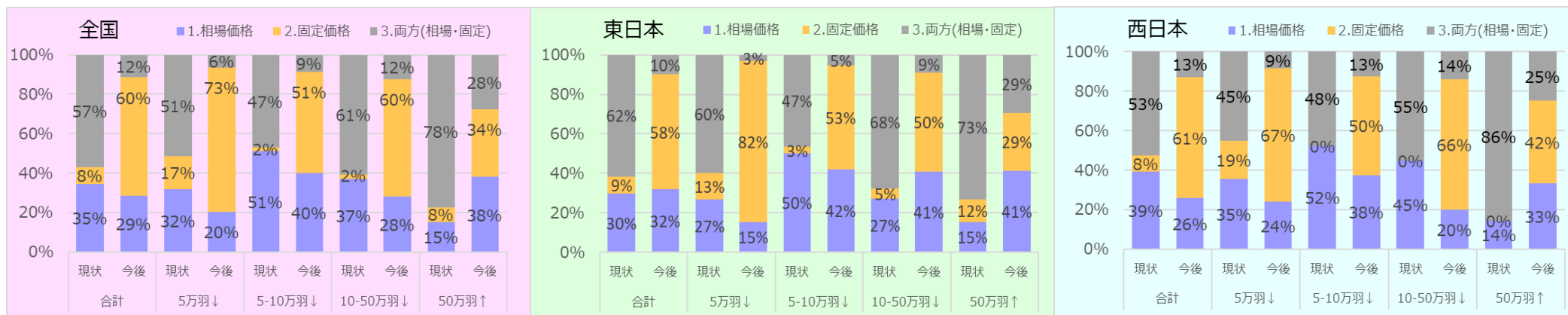
4 成鶏の飼養期間と誘導換羽

- 成鶏の飼養期間は、全国の飼養規模全体の平均では、「誘導換羽をよく実施する」711日>「誘導換羽を時々実施する」665日>「誘導換羽を実施しない」551日の回答となった。
- 誘導換羽の実施状況は、全国の飼養規模全体では、「誘導換羽をよく実施する」62%、「誘導換羽を時々実施する」12%、「誘導換羽を実施しない」26%の回答となった。
また東日本・西日本ともに飼養羽数5万羽未満では、**実施しないが40%と高い回答率**となった。



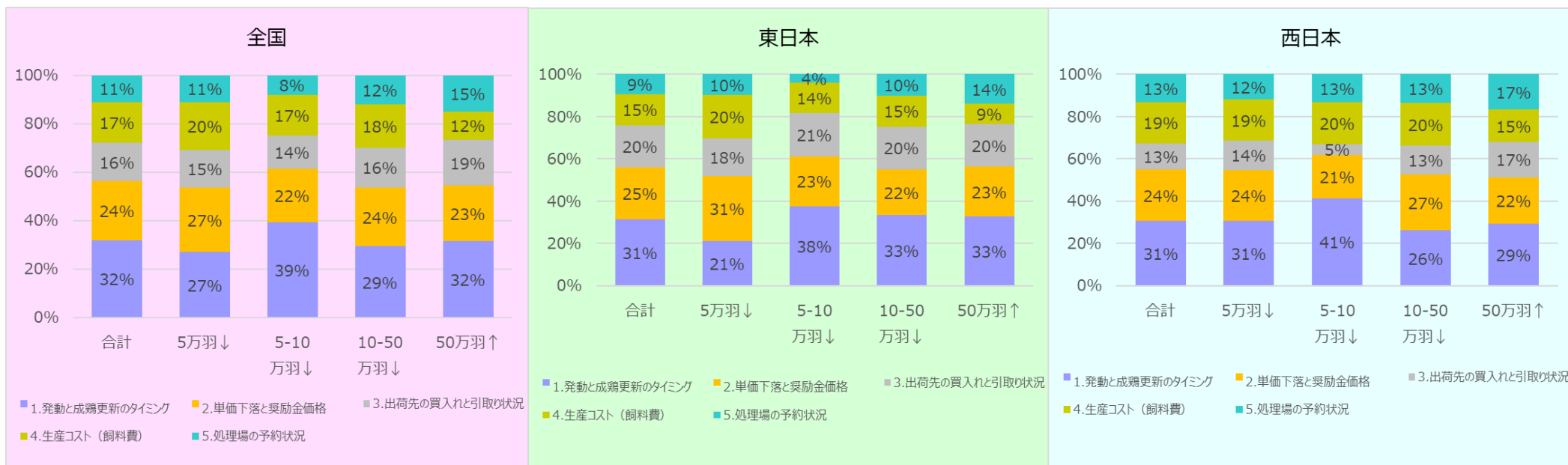
5 鶏卵の販売価格について[取引方法(現状・今後)、希望通りに価格転嫁できているか]

- 取引方法は、現状、全国の飼養羽数全体では、相場価格35%、固定価格8%、両方使用57%で、今後増やしたい取引方法は、相場29%、固定60%、両方使用12%となり、飼養羽数別においても、固定を増やしたい意向の回答となっている。
- 価格転嫁については、全国の飼養羽数全体では、できた36%、一部できた44%、全くできていない20%となり、値上げ率ではできた30%、一部できた19%の回答となっている。また、東日本合計及び西日本合計で、現状ほぼ同一割合の回答となった。



6 成鶏更新空舎延長事業に参加するかどうかの判断基準について

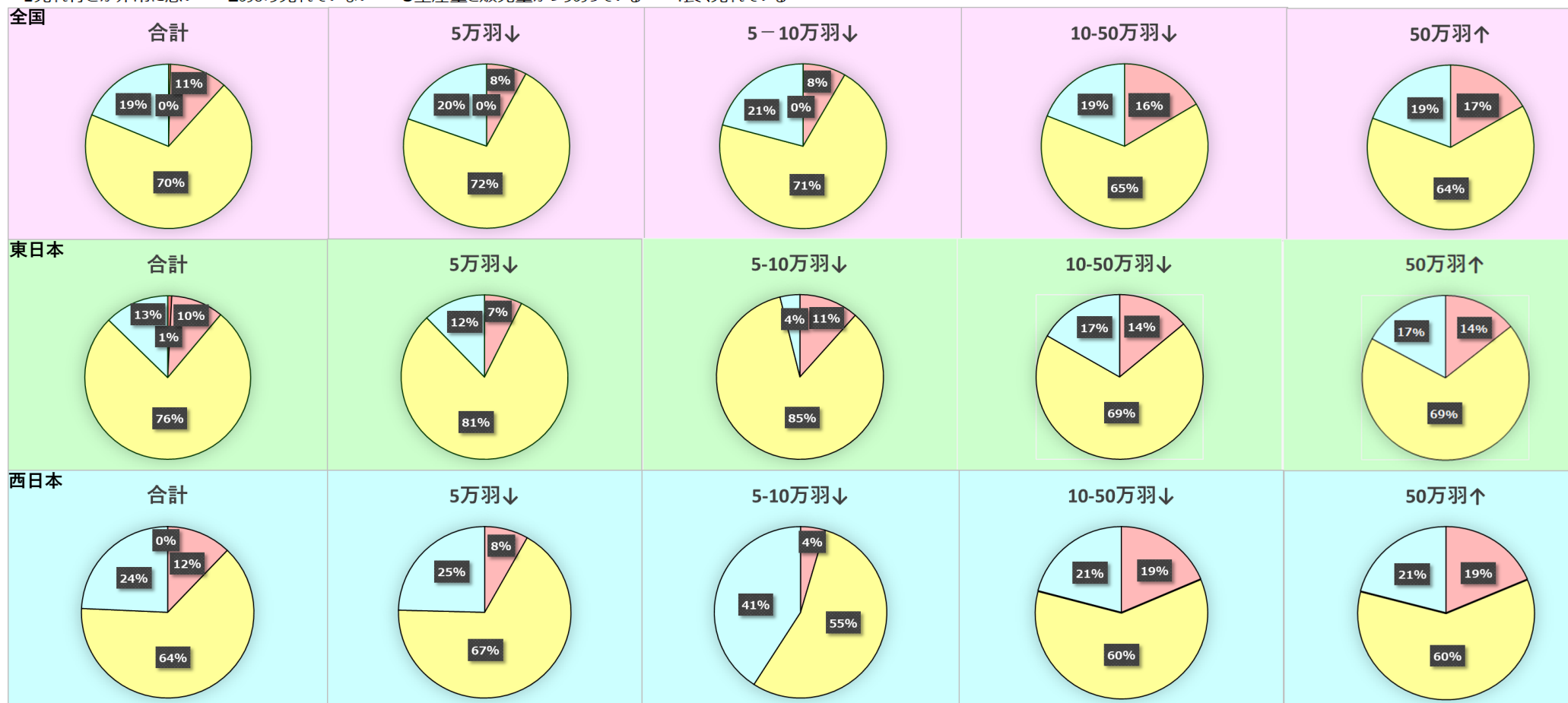
- 成鶏更新空舎延長事業への参加判断基準は、全国の飼養規模全体では、「発動と成鶏更新のタイミング」32%、「単価下落と奨励金価格」24%、「生産コスト(飼料費)」17%、「出荷先の買入れと引取り状況」16%、「処理場の予約状況」11%の回答となっている。
- 飼養規模別の回答では、判断基準の大きな変動はなかった。
*集計において、優先度1位:3、2位:2、3位:1にて算出。



7 たまごの販売状況

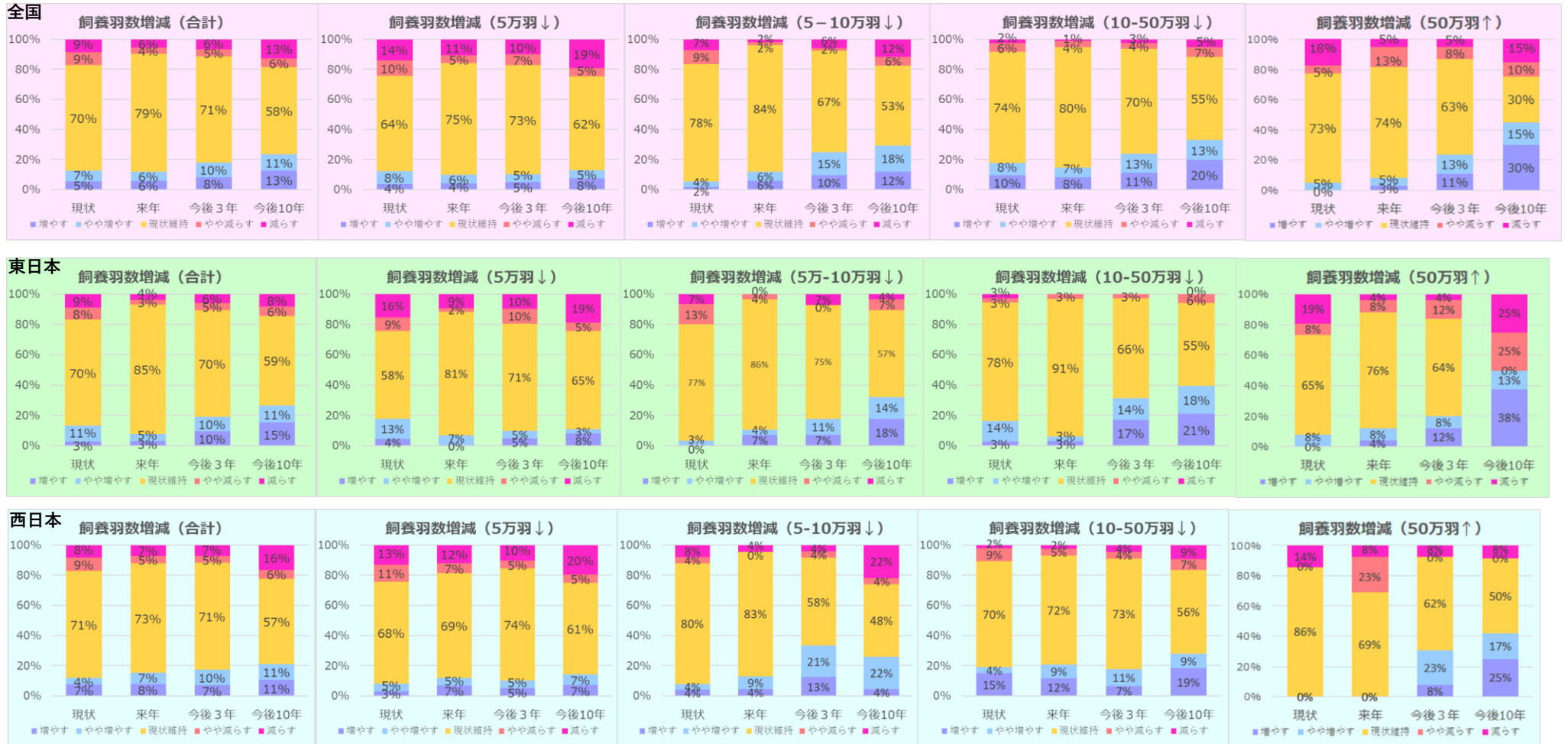
- 販売状況について、全国の飼養規模全体では、「売れている(つりあっている、良く売れている)」89%の回答となっている。
一方、「売れていない(売れ行きが非常に悪い、あまり売れていない)」11%の回答となっている。
- 飼養規模別では、10-50万羽未満及び50万羽以上で、「売れていない(売れ行きが非常に悪い、あまり売れていない)」の比率が高い回答となっている。

■ 1売れ行きが非常に悪い ■ 2あまり売れていない ■ 3生産量と販売量がつりあっている ■ 4良く売れている



8 飼養羽数の増減予定

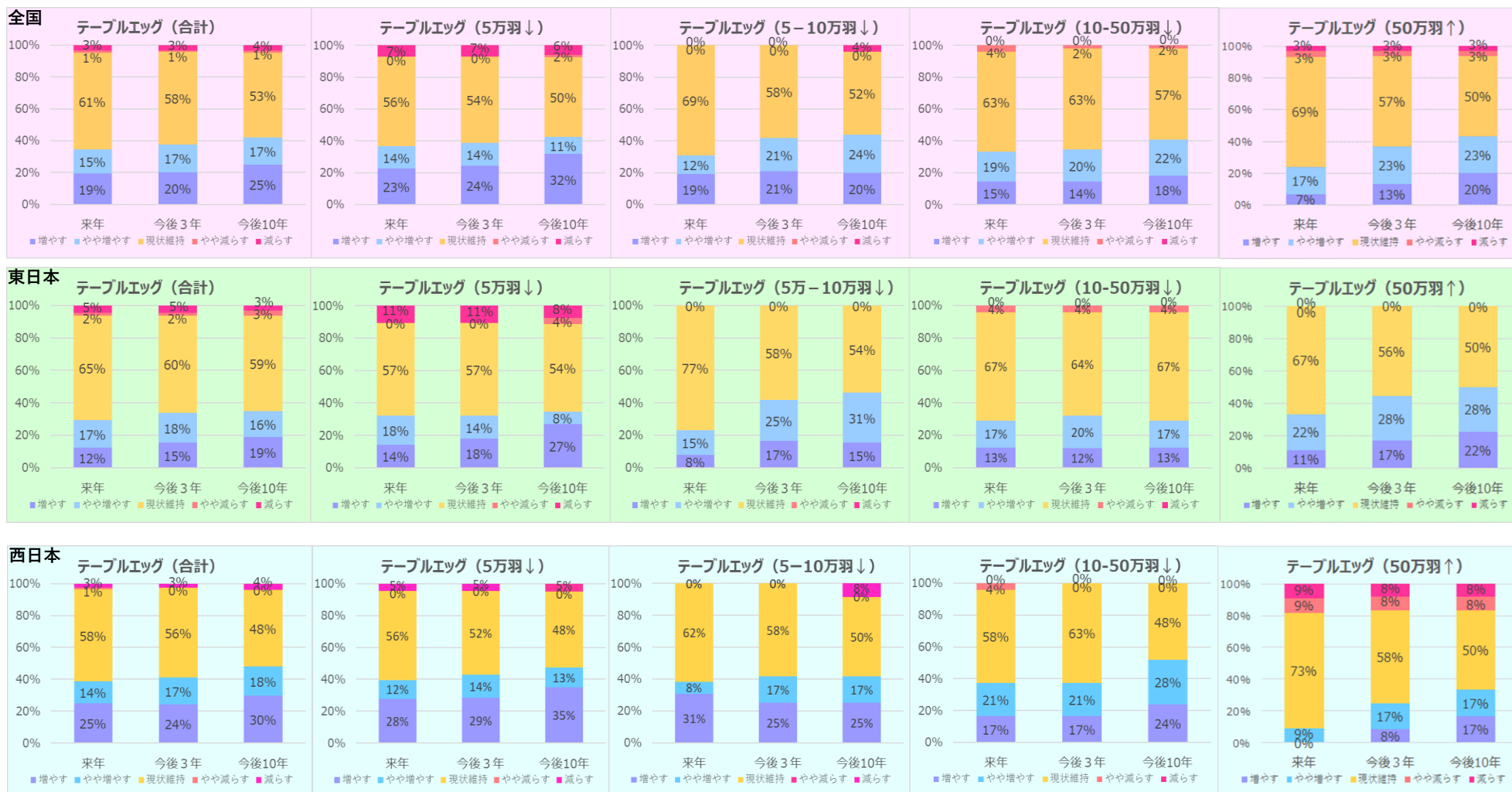
- 飼養羽数の増減について、全国の飼養規模全体では現状は、「昨年と比べ変化なし(現状維持)」が70%で、今後短期的(来年)には79%、中期的(今後3年)71%、長期的(今後10年)58%と減少傾向の回答となっている。一方、現状「増えている+やや増えている(増やす+やや増やす)」は、12%、短期的12%⇒中期的18%⇒長期的24%、同じく「減っている+やや減っている(減らす+やや減らす)」も、現状18%であるが、短期的10%⇒中期的11%⇒長期的19%と、増加傾向の回答となっている。
- 飼養規模別では、50万羽以上で、特に「増やす+やや増やす」の回答が、現状5%⇒短期的8%⇒中期的24%⇒長期的45%と将来に向けて高い傾向になっている。



現状については昨年と比べ、増えている、やや増えている、変化なし、やや減っている、減っている にて表示。

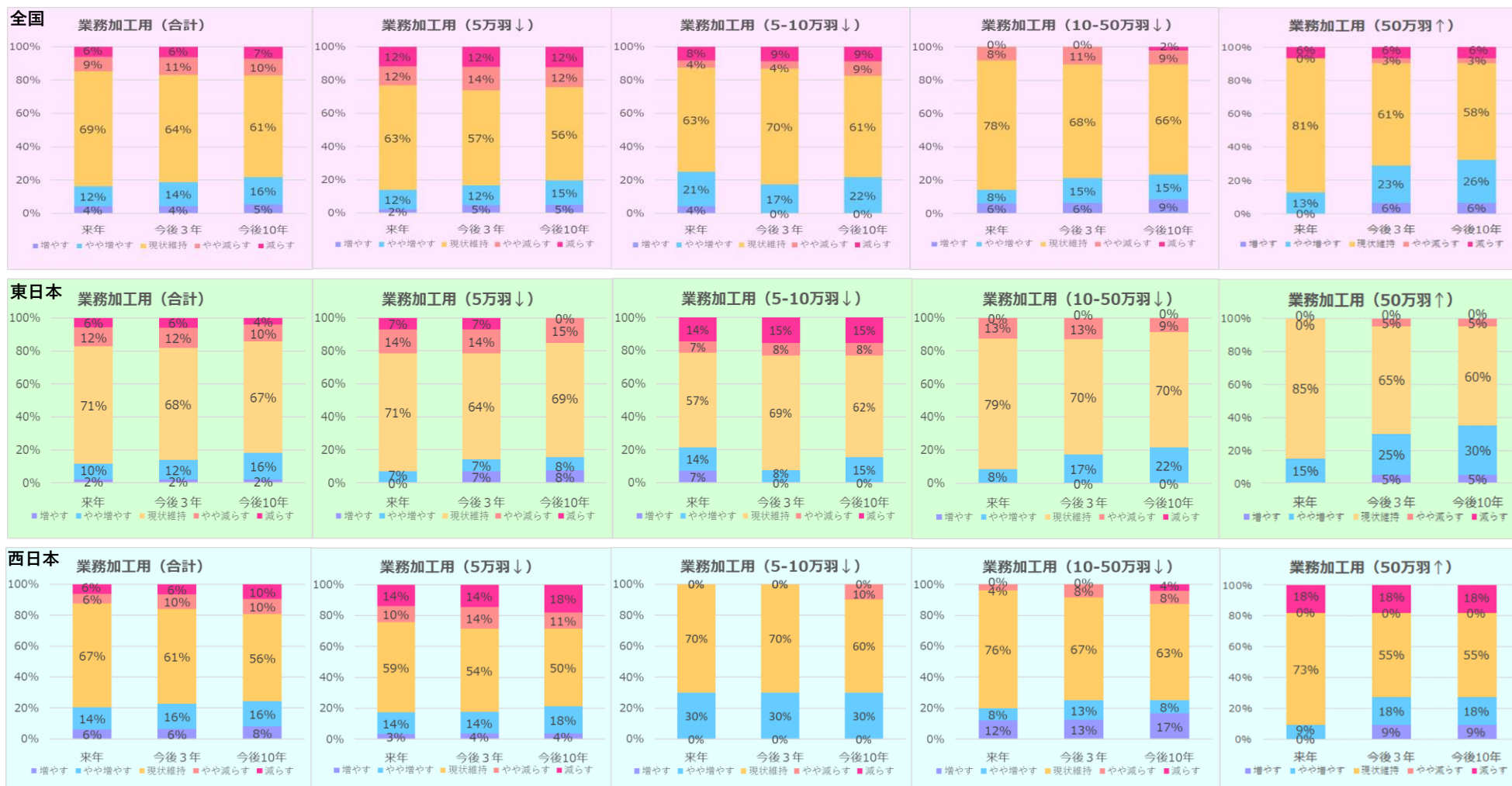
9 販売先の計画①

- テーブルエッグ向け出荷について、全国の飼養規模全体では、短期的(来年)には「現状維持」が61%を占めており、中期的(今後3年)58%、長期的(今後10年)53%と減少傾向の回答となっている。一方、「増やす(やや増やす含む)」は、短期的34%⇒中期的37%⇒長期的42%、と増加傾向である一方、「減らす(やや減らす含む)」は、短期的4%⇒中期的4%⇒長期的5%とほぼ変わらない回答となっている。
- 飼養規模別では、5-10万羽以上でテーブルエッグ向け出荷を「減らす(やや増やす含む)」の回答が短期的0%、中期的0%、長期的4%と最も低い回答となっている。



9 販売先の計画②

- 業務加工用への出荷について、全国の飼養規模全体では、短期的(来年)には「現状維持」が69%を占めており、中期的(今後3年)64%、長期的(今後10年)61%と減少傾向の回答となっている。一方、「増やす(やや増やす含む)」は、短期的16%⇒中期的18%⇒長期的21%、「減らす(やや減らす含む)」は、短期的15%⇒中期的17%⇒長期的17%と若干の増加傾向の回答となっている。
- 飼養規模別では、5万羽未満において、業務加工用への出荷を「減らす(やや減らす含む)」回答が、全期間(短期～長期)で、高くなっている。



9 販売先の計画③

○ 輸出向け出荷について、全国の飼養規模全体では、短期的(来年)には「現状維持」が60%を占めており、中期的(今後3年)45%、長期的(今後10年)50%との回答となっている。一方「増やす(やや増やす含む)」は、短期的32%⇒中期的47%⇒長期的43%との回答となっている。

○ 飼養規模別では、5-10万羽未満で、「増やす(やや増やす含む)」回答が、全期間(短期～長期)で、50%～80%と高くなっている。一方5万羽未満では、「減らす(やや減らす含む)」回答が、全期間(短期～長期)で、11%～20%と高くなっている。

